

埼玉  
県立

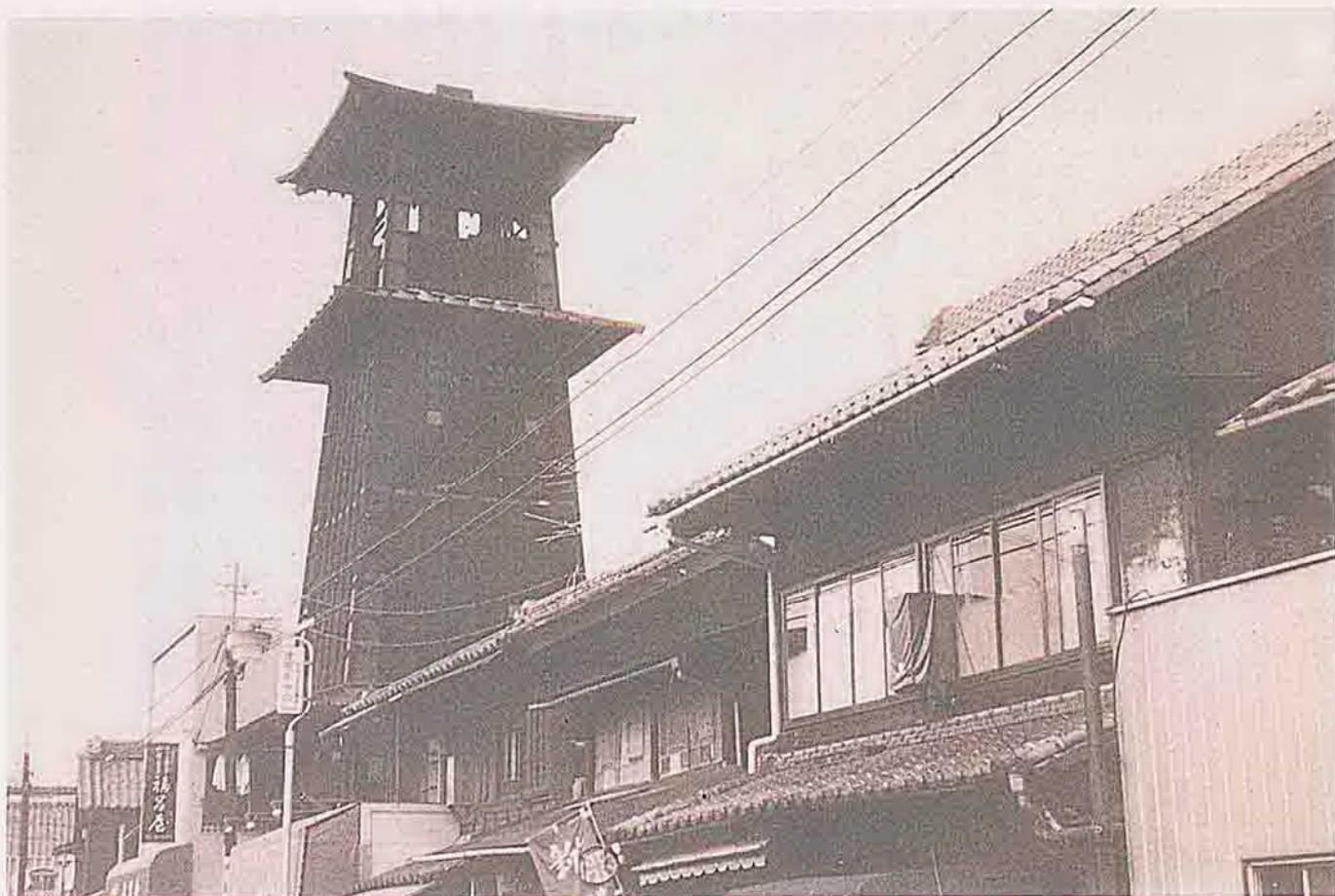
# 図書館だより

第7号

昭和56年3月31日

編集 埼玉県立図書館  
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館  
館長 石川 正明  
浦和市高砂 3-1-22



時の鐘 川越市  
(川越市企画課広報係提供)

## も く じ

- 県立図書館の運営体制の整備について…… 2～3
- 埼玉の文学—歌人とその作品①…… 4
- 視聴覚の利用案内…… 5
- 各館だより…… 6～8
- 第1回「著者を囲む会」…… 9
- 県内図書館めぐり…… 10
- 図書館の周辺…… 10
- 本のひろば(郷土の文芸雑誌)…… 11
- おたずねください—国際障害者年とは?…… 12

20  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
130  
1  
2  
3  
4  
5

### 体制の整備について 委員会議の助言

このほど（昭和55年11月22日）県教育委員会教育長から、県社会教育委員会からの助言ということで、県立図書館の運営体制の整備についての方針（別掲）が各県立図書館長および各市町村教育委員会教育長に示されました。

要綱の形をとったこの方針は、直接的には県が今後の図書館行政の目標と課題をそこに認め自ら長期的視点にたつて取り組む意向を明らかにしたものです。同時に県立図書館がその趣旨を受けて県民に対する図書館サービスのいっそうの充実を期するよう運営の指針を与えたものとなっています。

県立図書館は現在東西南北に各1館設置されていますが、これら4館は、はじめ県の総合振興計画（昭和38）によって浦和（昭和46年）に継承され、さらに中期計画（昭和51）に継承され、広く県民に図書館サービスをとどけていくための地域

ネットワークの4拠点（川越・久喜・つくばりとして発展的に構想され実現されたものです。

社会教育施設のこうした分散化を進めた背景には、わが国経済の高度成長政策下で、地域の産業構造・生活構造が急激に変貌し、あわせて教育に対する需要が増加して、学習社会の到来という客観状況の大きな変化が起ったことが作用しているものと考えられます。一方で過疎化を伴う人口の急増は、たしかに県民の学習の場所的・時間的・量的あり方に対する社会教育の施策の組替えを促し、これを機会均等の見地から総合的に計画する必要を課しました。

こうした経緯は一般的には、国における社会教育審議会の答申（昭和46年）「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」から中央教育審議会の答申（昭和54年）「地域社会と文化について」にみられる家庭・学校・社会を含めた国民の生涯学習の機会の拡充整備についての国の行政課題との関連において理解することができます。

ところでこの期に図書館の分野では、図書館法第18条の規定にもとづく「公立図書館の設置及び運営に関する基準」の制定に向う努力が重ね

られ、八すべての国民がその居住する地域のいかにかわらず、学習・調査研究、情報入手、レクリエーションに必要なあらゆる資料を利用するために、公立図書館の設置および運営について全国的にどのような態勢が望ましいかを審議されています。これらの一部実証されています。さらに埼玉の公立図書館の現況を勘案しながら、その中で果たす県立図書館の将来にわたる基本的な役割を明示したものがこの方針です。

その骨子となる点は、①図書館サービスは基本的に市町村が直接住民に対して行うものであるとともに、県立図書館が県民全体に公平なサービスを浸透させるために市町村立図書館等を援助するところに成り立つものであること②市町村立図書館等が単独で対応することが困難であるとおもわれる業務を県立図書館が分担すること③市町村の求めに応じ、県立図書館は当面図書館サービスが充分でない地域の実情に即して補完業務を行うこと④県立4館は相互の連携を深め機能分担するとともに一致して全県域にわたる図書館サービスの向上につとめること、などです。

もとより、図書館における学習の主体は利用者自身です。みなさんひとりひとりが必要とする学習の日常的な拠点として図書館を利用し、学習内容を選択し展開し役立てていただくところに、市町村立図書館の地域サービス計画を前提とした県立図書館の運営体制の整備の眼目があることを、この方針によって御理解いただきたいとおもいます。

**埼玉県立図書館の  
運営体制の整備について**

はじめに

埼玉県教育委員会では、戦後、図書館整備に着手し、埼玉県立図書館（現浦和図書館）を、昭和三十五年四月に改築したのをはじめ、昭和四十五年四月に熊谷図書館、昭和五〇年一〇月には川越図書館を設置した。

その後、県民の学習意欲は増大し、生涯学習の場として、図書館に寄せる県民の期待は急激に高まってきた。

そこで、埼玉県教育委員会では、昭和五一年一二月策定の埼玉県中期計画の中で、広く県民に図書館奉仕をしていくための地域ネットワークづくりの拠点として県立図書館4館構想を打ち出し、昭和五五年六月久喜図書館を設置するに至ったのである。

### 埼玉県立図書館運営 ——埼玉県社会教育

以上の社会的背景のもとに、埼玉県社会教育委員会では、埼玉県立図書館の運営体制を充実整備するため、県立図書館の基本的なあり方や、県立四館相互、県立と市町村立図書館との機能分担の望ましいあり方等について研究協議を重ねてきたが、一応の結論をみるに至ったので、今後の施策の推進にいかすことを期待して、埼玉県教育委員会に対し助言するものである。

- 一 埼玉県立図書館の基本的なあり方
- 県立図書館は県民の多様な学習要求にこたえるための社会教育施設である。
- 二 埼玉県立図書館の基本的機能
- 県立図書館は、各図書館が所管する区域において、主として次のような業務の充実実施に努めることが望ましい。
- (一) 県立図書館は、図書館資料の収集・整理・保存の充実を図る。
- (二) 県立図書館は、一般的図書館資料のほか、主として専門図書、希少で貴重な資料等を収集・保存する。
- (三) 県立図書館は、図書館資料の保存、廃棄基準を定め、資料の収蔵機能を高める。なお、当面は各図書館の収蔵庫の格差を縮小することとし、将来構想として、市町村立図書館等所有の資料をも含め集中保存管理を行う資料保存センター（仮称）を設置する計画を位置づける。
- (四) 県立図書館は、市民に対する図書館奉仕の機能を拡充するため市町村立図書館等との機能を分担し、相互協力を密にする。
- (五) 県立図書館は、市内諸地域の実情を勘案して、自分の間、移動図書館の運行、配本所の設置等を通じて補完的業務に努める。
- 三 埼玉県立図書館四館相互の役割分担
- 県立図書館は、四館相互の連携を深めるとともに、機能分担を次により行うことが望ましい。
- (一) 県立図書館は、高度な専門図書等の収集に当たって、県立図書館四館の分担を主として、次の分野において行う。
- 浦和図書館 哲学、宗教、社会科学、語学、郷土資料
  - 熊谷図書館 経済、産業
  - 川越図書館 芸術、文学
  - 久喜図書館 自然科学
- (二) 県立図書館相互の事務上の連絡調整は、浦和図書館が行う。

#### 全国図書館大会について

今秋十月二十九日、三十一日まで、全国図書館大会が本県で開催されることになりました。大会テーマは「人間性を深める図書館活動の広がり」を求めてと題し、埼玉会館を主会場として盛大に実施することになります。図書館利用者の皆様方多数の御参加をお待ちしております。





寄居町・鉢形城址

# 熊谷

文学散歩

## 秩父路に文学碑・史跡を訪ねて

県立図書館文化協力事業

荒川の溪流に沿って、秩父路に文学碑・史跡を訪ねる文学散歩が、十月二十三日(木)県立図書館の主催で実施されました。参加者は、百余名、快晴に恵まれ秩父路の秋色も心ゆくまで味わうことができました。

と意義あるものにしていただきまし

行程は、朝九時に熊谷女子校前を出発し、寄居・矢那瀬・長瀬(昼食後、両先生の講演)へと向い、熊谷女子校には四時に着きました。

熊谷の市街地にある「ここより秩父路」という石碑を左に見て、前方には遠く秩父連山の見える街道を荒川沿いに走り、男性的な景観を見せる鉢形城跡に着く。ここで武者小路実篤筆の田山花袋の石碑を見て昔をしのぶ。石幢・芭蕉句碑を後にして、長瀬の奇岩段丘の一角で記念写真を撮り、長生館庭園に、高浜虚子・若山牧水の句・歌碑を訪ねました。旅程の最後には、桜並木のトンネルを抜け、総合博物館(汲古館)で天然奇岩を見学しました。

この文学散歩を通して、郷土・文学への関心が深まり、日常の読書への手がかりになったように思います。来年度も計画されておりますので、興味のある方は、御参加ください。

# 浦和

## 古宮豊治さん

のこと

点訳奉仕者の古宮豊治さんが昨年12月25日心不全でなくなられた。91才であった。もともと品川区にお住まいで、のち八王子に移られたかただが、縁あって県立浦和図書館の点訳奉仕に参加され、一本の点筆によってこのささやかな仕事を支えてくださったかたである。



点訳にいそむ 在りし日の古宮さん

にもご高齢なので、ここ数年当館から点訳をお願いすることを遠慮していたが、ご自分で本を選ばれて、あいかわらず点訳に励まれていた。昨年11月に届けてくださった「波瀾万丈」の口巻が古宮さんのいわば未完の絶筆となったのである。

この間昭和43年には、全国の点訳奉仕者の中から選ばれて鉄道弘済会による表彰を受け、一昨年は県の社会奉仕賞である「ともしび賞」の第一回の受賞者の一人となられた。

ご高論にもかかわらず精神的には大へん若い力で、昨年8月「点訳のしおり」の新版をお送りしたところ、今まで使っていたのはだいぶよごれたから新しいのがほしいと思っていた、これで新しく勉強します、というお便りをいただいたが、91才にしてこの意欲はまことに驚くべき

ものであった。お家族のお便りでは、救急車で運ばれる二日前まで、机に向って点訳されていたというが、点訳奉仕にささげ尽くしたその後半生は、まさに内村鑑三の説く高尚にして勇ましい生涯だったのではなからうか。91というお年には何の不足もないが、多年障害者への奉仕に献身された古宮さんが、国際障害者年を目前にしてなくなられたことは本当に残念である。心からこめい福をお祈りする次第である。(川口幸造記)

## 教育放送ビデオの利用案内

テレビ埼玉より放映している埼玉県教委企画製作の教育放送番組のビデオテープ(VHS 1/2インチ、8mm 1/2インチ)の貸出及びダビングのサービスをしています。

番組の目録は、小・中・高校、社会教育機関に配布されていますので、北足立地区内にある機関、団体等で利用の際は、早目に連絡をしてください。(視聴覚課)

## お知らせ

- ◆ 映画会・コンサート
  - 1階鑑賞室
  - 第二土曜映画会
    - 午後1時30分
    - 4月11日—ムンパゼロ
    - 安全教室・父と母への赤信号
  - 5月9日—火事と子馬・さきわか物語・竹とんぼの空
  - 第三土曜レコード・コンサート
    - 午後2時
    - 4月18日—ロック—ジョン・レノン追想特集
    - 5月16日—チャイコフスキー特集
    - 子供のための音楽と映画のつどい
    - 埼玉会館小ホール 午後2時
    - 歌唱曲—おんまはみんな—空に
    - らくがきかきたいな・森の夜あけ
    - 映画—笠地蔵・ピータと狼
    - ◆ 春休み子供映画会 1階 鑑賞室
      - 午後1時30分
      - 4月2日—葉っぱのゆりかご
      - すずめどんのおにたいいじ・ちびでか物語
      - 4月3日—きせつといきもの
      - ようす・僕とサイの物語



## 文学散歩印象記

紅葉にはまだ早い秩父路の文学散歩に近所の方を誘って参加しました。鉢形城跡では、花袋の碑に深く刻まれた詩歌を口ずさみ、荒川から吹き上げる川風に四〇〇年の昔を偲ぶことができました。矢那瀬の別名「おばけ石幢」では、講師の「古老の伝説」を興味深く聞きながら、地蔵堂に合掌しました。「榎の実ちるむくの羽音乃はつ嵐」の芭蕉碑を後に長生館の芝生の虚子や牧水の碑に旅と酒を愛した歌人の心につれて、有意義な今日一日の文学散歩でした。紅葉には早き矢那瀬の句碑訪ふ赤蜻蛉石幢廻す手にも来る

(羽生市 平井道子)

## 読売ブッククラブ(YBC)県北支部結成

県内の読書グループが、より一層相互の連絡と活動の円滑化をはかるために、東西南北に四つの支部を設立しました。

県北支部では、昨年十月十七日、当館において、大里・児玉・秩父郡市のYBC役員・グループ代表者などが集まり、発会式を行い役員が次のように決まりました。

支部長 吉沢富子(本庄) 副支

部長 飯島久美子(熊谷) 片山正恵(秩父) 実行委員 萩原悦子(秩父) 水谷和子(深谷) 伊藤幸子(岡部) 岡部喜代子(江南) 春日康子(神川) 関野夏江(小鹿野) また顧問に熊谷・秩父・本庄・深谷各市立図書館長と県立熊谷図書館長。事務局は当館に置かれましたので、入会など詳細については、お尋ねください。

# 川越

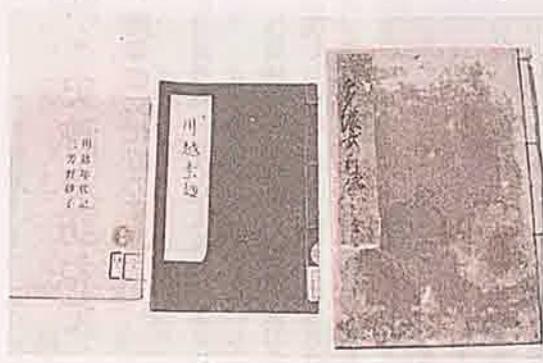
## 川越図書館五周年記念 郷土を知る資料展「川越」 をふりかえって

川越図書館では、昨年度から図書館文化移動推進事業として、著者を囲む会、郷土を知る資料展、等を開催しています。今年度の資料展は、当館の所在地である川越をとりあげました。川越市は県内で最も早く市制を施行しました。現在は、約二十六万の人口で、新住民も増加の一途をたどり、ますます発展しつつある市です。また、川越城跡、喜多院、蔵作り商店街など名所旧跡が多く、川越祭、南大塚のもちつき踊りなど民俗芸能にもめぐまれていく所です。

「郷土を知る資料展―川越―」は、県立図書館（浦和、熊谷、川越、久喜）の所蔵資料を展示し、このような城下町川越を県民の皆様に紹介し、郷土理解の一助にと企画したものです。

昨年十一月十一日から二十二日まで開催し、約千百名の入場者を数えました。特に「県民の日」は、休日とあってか、児童、生徒が多く、盛況でした。

約四五〇点の県立図書館所蔵資料



を歴史、地図、教育、文化財、蔵造り、文学、市内在住者著作物、などのコーナーに分け展示しました。主な資料としては、「川越素麺」「川越年代記 三芳野砂子」「川越案内」「川越便覧」「川越商業会議所月報」「大正元年陸軍特別大演習埼玉県記録」「川越電気鉄道株式会社報告書」などですが、特に明治、大正、昭和初期の地図は、見やすく展示したと

ともあり、たくさんの方が熱心に観覧されていました。

また、これらの資料とは別に、県立図書館から「市制施行にともなう文書」「建碑願の内喜多院境内図」「第八十五銀行関係資料」など十数点の資料を特別出品していただき、一段と入場者の関心を得ました。

資料展併催事業として講演会を十一月十五日に開催しました。

「川越と新河岸川舟運」という演題で、講師は、県立川越高校教諭、齊藤貞夫氏でした。新河岸川は川越から東京へ流れる川です。これを利用して、寛永十五年（一六三八年）、川越仙波の東照宮再建工事のため、資材を江戸から運んだことにはじまり、昭和十三年（一九三八年）、まったく途絶えるまでの四百年間の舟運の歴史を講演されました。

先生は、当時の船問屋「伊勢安」の息子さんであり、「新河岸川舟運の盛衰」「河岸場の今昔」の著書もあります。当日は、約八十名の参加者が熱心に聴講され、時間を超過しての質疑応答もあつた程でした。

また冒頭に、関係ビデオ・テープを放映したことも好評でした。

なお、展示会場に、「新河岸川舟運」コーナーを特設し、関係者から



船問屋の看板、早船運賃改正広告、水運回漕店の引札、などを借用し、陳列したことも、この資料展の「ポイント」となりました。

今回は、「川越」という狭い範囲ではありましたが、地域に密着した題材で展示会を開催することも好評を得るのだと考えています。(M)



## 久喜 第一回「著者を囲む会」 田中澄江先生を迎えて

利用者が、日ごろ親しんでいる本の著者に、身近に接することによって、読書体験をいっそう豊かにしてもらおうということから、県立久喜図書館は、昨年十月二十八日（火）、講師に劇作家の田中澄江先生を迎えて、同館集会室で、第一回の「著者を囲む会」を開きました。

ある話術に、会場の聴衆の方々は、しばらく酔いしれておりました。この後、先生を囲んで参加者から質問がありました。嫁と姑の問題なども含まれての豊かな内容でした。会が終わったのは一時近くで、参加者は、充実したひとときを持つことができました。

参加者は、最初一五〇名の予定でしたが、当日は一八〇名にもなり、会場はぎっしり埋まりました。テキストは、田中先生の「枕草子への招待」を使い、「歴史の中の女たち」という演題で、午前十時半から一時間ほど話をされました。過去、歴史の中で日本の女性が、どのように悩み、行動したかを清少納言をはじめ、何人かの女性についてふれられ、さらに、現代の女性の考え方や生き方と比較されるなどして、話を進められました。先生は、近著「花の百名山」などでも知られるように、登山家として、また山のエッセイストとしての面もお持ちですが、それらをも話の中に巧みに交えられ、ユーモアの



梅玉県民部・久喜よい音楽を広める会の主催する「鷺川貴美婦国記念演奏会」が、昨年十一月二十九日（土）に県立久喜図書館の視聴覚室で開かれました。これは、埼玉県とメキシコ州との姉妹州提携一周年を記念して、音楽を通して文化の交流を図ろうということから、現在メキシコで活躍中のソプラノ歌手鷺川貴美さんを迎えて行われたものです。

鷺川さんが、久喜市の出身ということもあって、当日は百四十席の会場がいっぱいとなり、整理券を出すほどでした。本場仕込みの、声量があり、魅力ある独唱に、拍手が鳴り



ステージの鷺川さん

### メキシコを歌う 鷺川貴美さん

りやまず、午後二時から三時半までという予定時間を超えて、三回はほどアンコール曲が追加されました。

メキシコのうた、日本の「この道」などのうた計十三曲が歌われ、質問のコーナーも間にはさんでの楽しいひとときでした。

### 「チャター」の名演奏をきく

映画「第三の男」で、一躍脚光を浴びたチャターの演奏という珍しい催しですが、去る十二月六日（土）県立久喜図書館視聴覚ホールで開かれました。日本チャター協会と久喜よい音楽を広める会の協力を得て、県立浦和・久喜両図書館の主催した、第二回「映画と音楽鑑賞の集い」がそれで「チャター」でつづる音楽の旅というタイトルで、内藤敏子さん、永谷義篤・弓夫妻のチャターとハーブ、高田明洋さんのコントラバス、川上博道さんのヨーデルと多彩な演奏でした。義爪を用いて音を出すチャターの、哀調を帯びた柔かい響きに、会場はしばしうっとり。日本に数少ないという演奏家に惜しみない拍手を送りました。

# 県内図書館めぐり

## 玉川村立図書館

開館 昭和五十五年十月二十一日  
延面積 六六一㎡  
建物 鉄筋三階建

一階 図書室  
二・三階 会議室・研修室

貸出日 週四日 火・木・土・日  
午後一時～五時

関口茂八氏図書館建設資金三三〇万円寄贈

今までの図書館は都市に集中していた。農山村と言えば、文化から取り残された地域、都会人は文化人、農山村民は文化人ではないとされてきた。こうした風潮は、長い間自他ともに認めてきたことであった。  
関口茂八氏は昭和の立志伝中の人である。若くして青雲の志を抱いて上京、始めは米問屋に小僧として働き、刻苦勉強、各種の会社を設立して実業界に名をなした。  
郷土玉川村をこよなく愛し、その発展と次代を背負う青少年の教育に



所在地 玉川村玉川二四八五  
電話 〇四九三六一  
五一・一五三五

思いを致し、教育施設充実のため数度にわたり多額の浄財を寄せられた。特に郷土が文化的に立ちおくれることを憂慮され、図書館設置の必要性を強調された。先般あらためてその資金の提供を申し出され、たまたま就業改善センターの建設を計画中であった村当局は、これと併せ設計したのがこの図書館である。  
現在蔵書数約一万冊、ようやく図書館への関心もあつまり、村内婦人読書クラブ、小中高児童生徒を中心に、利用の気運がたかまりつつある。

## 国際障害者年と図書館

公共図書館は、すべての地域住民に奉仕するところです。この「すべて」の中には、当然心身に障害を持つ方も含まれているのですから、障害者と図書館とはかかわりの深いものなのです。一般にはあまり知られていませんが、図書館は障害者への奉仕業務に長い間努力してきています。  
たとえば県立浦和図書館では、戦後まもなく点字図書の収集・製作を始め、視覚に障害を持つ利用者に貸出しています。また、東京都立中央図書館では昭和45年から視覚障害者に朗読奉仕（対面朗読と録音テープの貸出）を開始しており、現在では県内でも県立川越・久喜の両図書館で、同じサービスが行なわれるようになりました。その他、弱者の読書を手助けをする拡大読書器を備える館も増えています。このように視覚障害者へのサービスが多くなっているのは、活字資料をそのままの形態では利用できないからです。視覚以外の障害者へのサービスでは、障害者施設や病院（長期療養者）を対象とする団体貸出や、在宅の重度心身障害者対象の郵送貸出などを実施している図書館があります。



このようにして、様々な形でのサービスが行なわれています。そして、障害奉仕業務の拡大充実をめざして図書館間の協力体制がつけられつつあります。日本図書館協会でも、これを全国的なものとするために昭和54年5月に障害者サービス専門委員会が組織され、研究や活動が進められています。「完全参加と平等」を目標とする国際障害者年が始まりました。これを機会として、現在障害奉仕業務を行っている図書館も、これから行なおうとする図書館も、各々のおかれた条件に従って相互に協力しあいながら、新たな意欲を持って障害奉仕業務の一層の充実をめざしています。  
国際障害者年の目標を、スローガんに終わらせることなく、誰でも平等に利用できるように努めることが図書館に課せられた大きな今日の使命であると言えるでしょう。



## 郷土の文芸雑誌

前号に続いて、雑誌を紹介します。今回取り上げるものは、県内で刊行されている文芸雑誌で、各県立図書館において、継続して受け入れられているものに限りました。また、雑誌の性格により、俳誌、短歌誌、川柳誌、詩誌のように分類できないものは除きました。  
記載の内容は、以下の順になっています。

誌名、代表者（主宰）、発行所、住所、電話番号、刊行頻度、創刊年月、所蔵館名  
なお、詳細については、各県立図書館にお問い合わせ下さい。

### 【俳誌】

- 藍 岡安迷子 藍発行所 浦和市東高砂3-3 0488-85-7958
- 月刊 昭21-9 (浦・熊)
- 青ぶどう 池田草舎 浦和第一女子高校 浦和市岸町3-8-45

- 0488-29-2031 隔月刊 昭23-11 (浦・熊)
- 握手 磯貝碧蹄館 握手俳句会 浦和市大谷口956-16 488-85-5143
- 月刊 昭49-3 (浦・熊)
- 浮野 落合水尾 浮野発行所 加須市土手1-13-14 0480-61-3684
- 月刊 昭52-11 (浦・熊・久)
- 海程 金子兜太 海程発行所 熊谷市上之887 0485-21-6936
- 月刊 昭37-4 (浦)
- 群星 樽沼けい一 萬緑埼葛支部 北葛飾郡庄和町米島1005 0487-46-0559
- 年3回刊 昭46-10 (熊)
- 鯉 出生青朗 鯉の会 大宮市大成町1-650 グランドマンション2001号 0486-64-2733
- 月刊 昭26-1 (浦・熊)
- 七曜 永井由清 七曜発行所 東松山市本町1-7-5 0493-22-0268
- 隔月刊 昭29 (浦・熊・川)
- 春郊 中村幸絵 春郊社 与野市大戸5-21-4 0488-32-3628

- 月刊 昭34-4 (熊)
- 水明 星野紗一 水明社 浦和市仲町4-16-12 0488-61-4626
- 月刊 昭5-9 (浦・熊)
- 相思樹 柴田白陽 相思樹俳句会 熊谷市見晴町177-2 0485-21-5059
- 月刊 昭32-10 (浦・熊)
- 竹 丸山南石 竹発行所 比企郡川島町伊草1-8 0492-97-4659
- 月刊 昭46-7 (浦・熊)
- 塔 小笠原龍人 塔俳句会 北葛飾郡庄和町123 0487-46-0403
- 月刊 昭34-1 (浦・熊)
- 波 濱田波川 波発行所 大宮市植竹2-85 植竹団地4-106 0486-63-7618
- 月刊 昭22-12 (浦・熊)
- 俳句サロン 野口立甫 俳句サロン 上尾市小敷谷710 0486-26-1017
- 月刊 昭51-8 (熊)
- 紫 関口比良男 紫の会 浦和市本太2-1-22 0488-82-4988
- 月刊 昭16-10 (浦・熊)
- やまびこ 岡田壮三 やまびこ文化会

### 【短歌誌】

- 秩父市番場町8-13 04942-4-5850
- 月刊 昭48-8 (浦・熊)
- 曜変 石田風太 曜変俳句社 川越市新宿町2-11-1 0492-42-3156
- 隔月刊 昭47-7 (川)
- 鎖 紺野幸子 鎖短歌会 浦和市領家6-13-19 0488-31-9157
- 隔月刊 昭47-7 (浦・熊)
- 草の芽川 辺夏生 川里短歌会 北埼玉郡川里村屈果2703 0485-69-0312
- 月刊 昭50-2 (浦・熊)
- 個性 加藤克巳 個性の会 与野市大戸5-17-21 0488-31-3411
- 月刊 昭38-1 (浦)
- 青遠 濱梨花枝 青遠短歌会 久喜市中央3-1-21 0480-21-0173
- 季刊 昭41-10 (浦・久)
- 長風 鈴木トシ 長風短歌会 浦和市元町2-26-23 0488-86-2303
- 月刊 昭32-6 (浦・熊)
- 百代草 関根榮子 しらおか短歌会

### お知らせください

#### 国際障害者年とは？

問 今年が国際障害者年ですが、その決定の由来や、我が国でのとりくみ方などについて教えてください。

答 一九八一年を「国際障害者年」とすることは、国連の第31回総会（一九七六年）において、リビアの呼びかけにより我が国を含む41ヶ国の共同提案として、全会一致で採択されたものです。そして実現すべき五つの目的を掲げ、テーマを「完全参加と平

等」と決定しました。国際障害者年一九八一年は、一九九一年に「障害者の十年」の出発点にあたります。我が国においては、総理府に「国際障害者年推進本部」を設置し、その企画立案に関しては、総理府の附属機関、中央心身障害者対策協議会の中に特別委員会を設けています。

一方、民間の関係団体においては、約七十団体からなる「国際障害者年日本推進協議会」が充足しています。民、官双方で、

行動計画をたてていますが、単にお祭り騒ぎにするのではなく、国民みんなが考え、参加するものにならなければならないという指摘もなされています。ちなみに本県では、県と障害者団体代表などで「国際障害者年事業検討会」が昨年設置され、医療、教育、雇用、住宅等の施策推進が提言されています。

資料 「国際障害者年」八木英二著 青木書店 「国際障害者年関係資料集」国際障害者年推進本部 他

- 南埼玉郡白岡町小久喜 898-10
- 04809・2・2524
- 年刊 昭50 (熊・久)
- 不死鳥 森田正雄 本庄短歌会
- 本庄市銀座2-3-21
- 0495・22・6024
- 月刊 昭17・4 (浦・熊)
- みずしろ 須郷園子 青遠短歌会行田支部
- 行田市駒形1-15-18
- 年刊 昭53・3 (浦・熊)
- 武蔵野 中津賢吉 武蔵野会
- 秩父市中町6-5
- 04942・3・0264
- 季刊 昭22・2 (浦・熊・川)

- 【川柳詩】
- さいたま 内藤悟郎 埼玉川柳社
- 浦和市仲町4-2-2大隈玉甫方
- 0488・61・7273
- 月刊 昭33・7 (浦・熊)
- 新樹 泉長行 川柳新樹会
- 春日部市武里団地6-4-203
- 0487・34・6002
- 月刊 昭51・1 (浦・熊)
- 川柳三味 柿沼研人 熊谷川柳三味会
- 熊谷市榎町177
- 0485・21・1576
- 不定期 昭40・1 (浦・熊)

- 【詩誌】
- あら 相原板三、佐藤正子 ぜふいるす館
- 草加市柳島町572-3相原方
- 0489・25・1090
- 不定期 昭49・6 (浦・熊・川)
- エウリディツケ 清水須己 野火止書房
- 新座市あたご3-13-33
- 0484・78・5924
- 年2回刊 昭53・12 (熊)
- 大宮詩集 宮澤章二 大宮詩人会
- 大宮市日進町1-800-51吉田方
- 0486・65・0685
- 年刊 昭53・12 (熊・久)
- 回廊 林哲生 詩サークル回廊

- 狭山市入間川2-5-15
- 0429・53・2286
- 季刊 昭54・4 (熊)
- 風 土橋治重 風社
- 八潮市大瀬1407-52土橋方
- 0489・95・6469
- 季刊 昭36・8 (浦)
- 抗 抗詩文会 燎原書館
- 浦和市仲町4-2-20
- 0488・63・3536
- 年刊 昭47・4 (浦)
- ペンギン 志賀和雄 ペンギン発行所
- 蕨市北町5-9-16志賀方
- 0484・44・0534
- 季刊 昭48・10 (浦・熊)

#### 編集後記

五五年度最後の図書館だより第七号をお送りします。今回、いろいろの文化活動につきあとづけをいたしました。この経験をふまえて、もっともっと文化の輪をひろげましょう。五六年は、ご承知の「国際障害者年」として多彩な奉仕活動を展開する、その心構えとして障害者年の意義につき記しました。ところで県内東西南北に県立図書館が設立され、いざこれから本格的な再出発という覚悟もあらたに、県立図書館の運営体制の整備に基づき奉仕活動を展開しますので、ここに披露いたしました。